

秋の彼岸会のご案内

秋の彼岸会を左記の通り厳修致します

ご多忙中とは存じますが 皆様お誘い合わせの上
ご参詣下さいますよう御案内申し上げます

記

平成二十年九月二十三日（火）祝日

午後一時 彼岸会法要

ご先祖供養塔婆回向

午後二時 法話 常林院住職

（内容）

「やさしい仏教教室」

- ・ 仏教の始まりお釈迦さまの話。
- ・ お経の話。三蔵法師の話。
- ・ 宗派の違い。どう違うの？
- ・ 智恩院さん、真宗さんと。等

※塔婆回向ご希望の方は、当日までにお
申し込みください。 合 掌

あとがき

お盆中は何かとお世話になり、ありがとうございます
いました。

さて、秋のお彼岸がやってまいります。今回の
彼岸会の法話は、「やさしい仏教教室」として、仏
教のはじまりから現代までの流れをお話させてい
ただこうと思います。内容は、

・ 仏教をつくられたお釈迦さまの話。お釈迦さま
の生涯。どういうお方だったのか。

・ お経はどのようにして作られたのか。お経に関
わった人たち。三蔵法師の話。

・ 同じ浄土宗系の宗派の話。本山は？教えは？教
団の大きさは？西山派、智恩院さん、真宗さん、
何がどう違うのか。など。

ご家族お友達お誘い合わせの上ご参詣ください。
ご多数のご参詣をお待ちしております。

平成二十年九月一日発行

浄土宗西山禅林寺派

常林院

月影



第 25 号

生せいがあれば

死しがあり

幸さいわいがあれば

災わざわいがある

いずれにも執しゅうちやく着ちやくしない

ある家に、ひとりの美しい女が着飾きかざって訪ねてきました。その家の主人が、

「どなたでしょうか。」

とたずねると、その女は、

「わたしは人に富とみを与あたえる福の神です。」



と答えました。主人は喜んで、その女を家に上げて手厚くもてなしました。

すると、すぐその後から、粗末そまつなみなりをした女が入ってきました。主人がだれであるかとたずねると、

「わたしは貧乏神です。」

と答えました。主人は驚いてその女を追い出そうとしました。すると女は、

「先ほどの福の神は、わたしの姉です。わたしたち姉妹はいつも一緒に離れたことはありません。わたしを追い出せば姉もいなくなります。」

と主人に告げ、女が去ると、やはり美しい福の神の姿も消えてしまいました。

生があれば死があるように、善いことがあれば悪いことがあり、また悪いことがあれば善いことがあります。同じ状態が永遠に続くことはありません。

いたずらに悪いことをきらって善いことだけを求め執着していると、善いことも姿を消してしまうかもしれません。善いこと悪いこと二つをともに超えて、いずれにも執着しないようにしたいものです。

お経の話

何が書いてあるの？

じょうどしゅうせいぎんごんぎょうしき

浄土宗西山勤行式 (赤本) 解説

しせいげ

肆誓偈 (一)

我建超世願 必至無上道

斯願不満足 誓不成正覚

我於無量劫 不為大施主

普濟諸貧苦 誓不成正覚

(訳)

私(法蔵菩薩)は、覺りを開いて生きとし生けるものを救済するために、世に比類なく勝れた四十八の願いをたてました。必ずこの上ない覺りの境地に達するでしょう。もしこの誓願を達成することができないならば、私は誓って仏とはなりません。

私は、この先いつまでも大いに恵みを施す主となつて、さまざまな貧苦にあえぐ人々を救います。もしそれができないならば、誓って仏とはなりません。

阿弥陀仏の願ひ

はるか昔、世自在王如来という仏さまがおられました。その時、国王の身でありながら仏を目指す心をおこし、世自在王如来のもとで修行者となった法蔵菩薩という方がいました。法蔵菩薩は「あらゆる人々を救うためにはどうすればいいものか」と考えぬかれ、あらゆる人々が往生できる西方極樂を建立しようと思いたちました。そのため四十八の願いをたてられました。

その四十八願を成就するために法蔵菩薩は計り知れない時間にわたって修行を積み重ねられ、その結果、四十八の願いを成就されて阿弥陀仏という名の仏となり、極樂浄土を建立されました。

肆誓偈は、阿弥陀仏の四十八願の要旨を四つにあらわしたものです。

願ひの一つ一つに、

「もし、この願いを達成することができないならば、誓って仏とはなりません。」

という誓いをされています。必ず苦しんでいる人々を救うという、阿弥陀仏の固い決意があらわれています。

いんげんとうもろこし月様

くジャータカ物語よりく

その昔、お釈迦さまはウサギとなって修行をしていました。ウサギにはカワウソと犬とサルのお友だちがいました。そしていつも、

「困っている人がいたら、助けてあげなくてはいいけないね。食べ物ほしいという人には自分の食べ物に分けてあげようね。」と話していました。

あるとき、一人の旅の僧が森にやってきました。何日も食べる物がなく、ひどく弱っています。

四匹は、さっそく修行僧の為に食べ物をとりにでかけました。カワウソは魚を、犬は肉を、サルは果物をとってきました。しかし、ウサギは季節から自分の食べ物さえなくて困っている時でした。途方にくれてもどってきたウサギは旅の僧に言いました。

「お願いがあります。どうか、たきぎを集めて火をおこしてください。」

いわれるままに旅の僧は火をおこしました。

するとウサギは、

「わたしにはあなたにさしあげる食べ物は何もありません。どうか、焼けたわたしの体を食べてください。」

そうやって真っ赤な火の中に飛びこびました。ところが不思議なことに火はすこしも熱くありません。その時です。旅の僧は、帝釈天の姿となり、「ウサギよ。おまえのそのやさしい心と行いが世界中に広まるよう、月におまえの姿をしるそう。」帝釈天はそうやって天界に帰っていきました。

その夜、四匹の動物は、

山の上に集まりました。

「ウサギさん。お月さまの中にあなたとよく似たウサギがいるよ。」

月はいちだんと明るさをまして世界中を照らしていました。



※「ジャータカ物語」とはインドの民話や伝説をもとにできた、お釈迦さまの前世のお話です。世界中に広がり、「イソップ物語」や「グリム童話」、日本の「今昔物語」にも影響を与えました。